

# 三條別院のご案内

十一月五日から八日までの四日間に渡り、「三條教区 宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌お待ち受け法要」と兼修でお取り越し報恩講が厳修されました。連日三條教区各地からご参詣に来られ、四日間で約二〇〇〇人の



式を執り行いました。また、十一時より音楽法要が行われ、午後二時より初速夜法要、その後、当別院輪番藤坂初裕)による御伝鈔(上巻)が拝読され、昨年同様、堂内の照明をほぼ落とし、御絵伝をスクリーンに映し出しました。



帰敬式の執行、速夜法要後、本山堂衆による御俗姓の拝読が行われ、引き続き佐渡市に伝わる重要無形民俗文化財である文弥人形の公演が行われました。八日には、ご門首が結願日中に御親修し、午後からは約八十名の方々が、ご門首より、帰敬式をお受けにされました。講師陣としまして、五日の田口ランディ氏(小説家)は、田口さんが幼少の頃からの家族の話を基に、親兄弟の死を

## お取り越し報恩講 厳修

### 三條教区宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌 お待ち受け法要と兼修

方々が、親鸞聖人のご遺徳を徳を、報恩謝徳の誠を尽くされました。

五日は、御遠忌事業の「田んぼアート」で収穫されたお米と坊守会より打敷の修復寄贈、第二



組より花瓶をそれぞれ進納していただいたことから、午前九時よりお練り、引き続き採納



六日は、日中法要より御鍵役(信明院殿)が御参修され、続いて帰敬式を執行。また、速夜後には、御伝鈔(下巻)を源川秀教氏(第十一組 圓満寺)が拝読されました。七日には、日中法要後、

### 四日間で約二〇〇〇人が参詣

目の当たりにして教えられたことがなければ、今堂内にいる方にお話しすることもお話いただきま

した。六日の武田定光氏(元親鸞仏教センター嘱託研究員)は、真宗を私達の生活を通して身近なところからお話いただきました。また、私達が何気な



# 八日はご門首が御親修

## 帰敬式を執行

から浜松智弘氏(佐渡組 勝廣寺)、  
佐々木憲雄氏(第十五組 光善寺)、  
藤波法英氏(第十八組 西入寺)  
がお話されました。



く使っている言葉から、  
仏法に遇う有り難さや  
驚きなどお話しください  
ました。また、七日の  
真城義麿氏(大谷中・  
高等学校校長)は、教  
育、社会、経済の視点  
から真宗についてお話  
いただき、後半には清  
沢満之の「天命に安ん

じて人事を尽くす」という話を  
ひいて、本願に安んじて私達の  
出来ることを行うというお話も  
いただきました。八日の小川一乘氏(大谷大学名  
誉教授)による記念講  
演では、「念仏成仏これ  
真宗」というテーマで  
お話いただきました。

## 小川一乘氏による記念講演



最後に、この度の教区お待ち受け法要兼三条別院報恩講を厳修するにあたり、法要へ出仕いただいた方々、スタッフとしてお手伝いをいただいた方々、この場を借りて御礼申し上げます。

普段忘れがちなお念仏を頂く心や、愛憎違順の私達の生活と成仏などを現在に生きる私達に頷きやすい形でお話いただきました。

晨朝法話は、教区内



院報恩講を厳修するにあたり、法要へ出仕いただいた方々、スタッフとしてお手伝いをいただいた方々、この場を借りて御礼申し上げます。



## 三条別院に想う

この度初めて三条別院の報恩講に出仕させていただきました。内陣の中に居て、参詣される方々のお念仏の小さな声を聞いていた。以前なら私の周りのお念仏の声が小さくなったことを嘆き、別院でも同じようなのかと嘆いたのであろう。今はこう言える。「こんなに人がたくさん参って阿弥陀さん、驚いていらっしやるだろう」と。

やはりいつもお寺が人でいっぱいになることを願っているが、私がお預かりしているお寺の実態は普段はひっそり、何か行事やお参りがあると人が参る。しかもそれは少人数であったり大人数であったり。しかし日々は静かで、お墓参りに来る人もそう頻繁ではなく、来ても本堂に上がらずにそのまま帰る人もいる。一日で言えば、おあさじをつとめる、お仏供をお備えする、お下げする、おゆうじをつとめる(つとめるお寺の場合)、本堂の扉を開める、そういう人がボツリと参るだけ。静寂を破る例外は、うちの小さい子供達が走り回る場となっていることぐらいか・・・

この静寂はまるで、「念仏申せ、念仏申せ」と阿弥陀如来は立ち上がり、その流れを汲んだ名もなきたくさんのお念仏申してこられた方々をはじめ蓮如上人や宗祖親鸞聖人、七高僧や聖徳太子に促されているにもかかわらず、念仏に生きられない、念仏の歴史を背負って立とうとしない、「念仏申せ」の声に呼応しようとしぬ私の姿そのものではないか。しかし、そんな私の姿は「仏かねてしるしめして、煩惱具足の凡夫とおおせられたるこ



となれば」である。  
それをこの静かな本堂の姿から、私は問われて  
いるのではないだろうか。

「それ人間に流布してみなひとのころえたる  
とおりは、なにの分別もなく、くちにただ称名ば  
かりをとえたらば、極楽に往生すべきようにお  
もえり。それはおおきにおぼつかなき次第なり」

この「御文」の言葉を大事にしてゆきたい。

(佐渡組 廣永寺 大久保 州 氏)

○次回の「三条別院に想う」は、

池田 陽氏(第十八組 長福寺)より

ご執筆いただきます

■御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日  
に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、  
その後、座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけますので、ご参詣い  
ただきますようお願い申し上げます。

また、各寺院の聞法会・同朋会等にもご利用い  
ただければ幸いです。

なお、前日(二十七日)はお速夜として、午後  
二時よりお勤めをしております。

【十二月二十八日(火)】

午前十時 お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下  
念 讚 洵五

和 讚 回 口 次第六首  
回 向 願 以 此 功 徳

◎今月の法話講師

鳴澤 宏誓 氏(第十九組 長福寺)

■煤払い奉仕団に参加しませんか?

今年も残すところ後わずかになりました。そこ  
で、一年で溜まった埃を払う「煤払い奉仕団」を  
左記のとおり開催いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

○日 時 十二月十九日(日)

午前九時より正午まで

○場 所 三条別院本堂

○持ち物 勤行集、念珠

※参加される方は、十二月十五日(水)までにこ  
連絡ください。

※動きやすい服装でご参加ください。

■除夜の鐘・修正会のご案内

除夜の鐘

◇日 時 十二月三十一日(金)

午後十一時四十五分より

◇場 所 当別院鐘楼堂

※受付は教区同朋会館

○受付場所にて、温かいお飲み物を振る舞います。  
修正会

◇日 時 二〇一一年一月一日(土)

午前零時より

◇場 所 当別院本堂 旧御堂

○お勤め後、旧御堂にて輪番による新年の挨拶

■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、同朋会館一階 事  
務所にございます宿泊者帳に記帳していただき、  
シーツクリーニング代としまして、五〇〇円いた  
だいております。

また、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まります  
ので、お参りいただきますようお願い致します

■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきました  
三条別院にお越しいただき、その歴史に触れてい  
ただくとともに、現代の様々な問題を抱える私た  
ちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う  
ことを通じて、ともに語り合い、人間として生き  
る意味を尋ねていく場となることを願ひ、奉仕研  
修会を開いてみませんか。

○日程及び内容について、ご要望等ございました  
らご相談承ります。

○奉仕研修会をお申し込みいただく方(団体)へ、  
冥加金としまして左記のとおり頂きます。

◎冥加金

・日帰り 一、五〇〇円

・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

・朝食代 五〇〇円

・昼食代 一、〇〇〇円程度

・夕食代 一、三〇〇円程度